



県中いわて

令和元年6月1日 / 第246号

●発行／岩手県中学校長会 ●代表／小野寺昭彦（盛岡市立下橋中学校） ●事務局／〒020-0885 盛岡市紺屋町2-9（盛岡市勤労福祉会館2F）／電話019(622)0572 ●印刷／杜陵高速印刷／電話019(651)2110

第57回岩手県中学校長会総会（4月26日開催） 会員の叡智で教育改革の推進を

岩手県中学校長会 第49代 会長 小野寺 昭 彦（盛岡市立下橋中学校）

本日は、第57回岩手県中学校長会総会を、県内各地から会員の皆様にご参集いただき、このように盛大に開催できますことに心から感謝を申し上げます。

また、公務ご多用の中、岩手県教育委員会教育長 佐藤博様、岩手県市町村教育委員会協議会会長 千葉仁一様をはじめ、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜りましたことに衷心より厚く御礼申し上げます。

まずもって、この3月を持ってご勇退されました、佐藤進会長をはじめ31名の会員の皆様には、30有余年の長きにわたり、本県教育の充実・発展に多大なご貢献をなされました。また、私ども後輩を温かくご指導いただきますとともに、本会を力強く牽引していただきましたことに心から感謝を申し上げます。どうかこれからも私ども後輩に対しまして、ご指導を賜りますようお願いを申し上げます。

そして、4月から新たに会員となった32名の皆様、心から歓迎を申し上げます。本会は、「会員相互の協調と連携を基調に、中学校長としての職能の向上を図り、本県教育の振興に寄与すること」を目的としています。新会員の皆様方には、これまで積み重ねてこられました様々な経験をもとに、校長としての学校経営に存分にお力を発揮されますようご期待を申し上げます。

さて、時代はまもなく平成から令和へ変わろうとしています。現在、学校は、いじめや不登校、SNSを起因とした様々な問題への適切な対応が求められる中、令和3年に完全実施となる新しい学習指導要領に示された「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラムマネジメントの充実」などの推進、あわせて、徐々に具体的な取組を進めてきている部活動の在り方や働き方改革など、これまでにない様々な教育改革が求められています。全てを同様に推進することは難しいことではありますが、逆にこの時機であるからこそ、いく

つかの取組を併せて変えることができることもあろうかと思えます。私たちは、学校の最高責任者として、学校や地域の現状を的確に把握しながら、未来を見つめ、生徒や地域にとって今何が必要かを考え、ぶれることなく着実に推進していくリーダーシップが大切ではないかと考えます。



また、震災から8年が経過し、被災地では、新たな校舎建築も進み、校庭にあった仮設住宅も撤去されるなど、震災前に近い状況で学校教育を推進することができるようになりました。2年後には、震災から10年という節目を迎えることになります。我々の先輩が、想定外の状況のもと、マニュアルもない中で最善の方策を考えて取り組んだ「横軸連携」、そして、その後の継続した取組は、全国に発信できる価値のある取組であり、記憶だけではなく、記録としてもしっかりと引き継いでいく方法を検討しなければならないと考えます。

来年度は、第57回岩手県小中学校長研究大会花巻大会が開催されます。また、その翌年には盛岡市を会場として、第71回東北地区中学校長会研究協議会岩手大会の開催が予定されており、さらにその3年後となる令和6年には、第75回全日本中学校長会研究協議会岩手大会の開催が予定されています。今後開催される研究大会で大きな成果を残すためには、今年度から着実に準備を積み重ねていく必要があると考えます。

元号の改正とともに大きな節目を迎えている今、私たちは、求められている様々な改革や直面してい

る課題を乗り越え、自信を持って学校経営を推進するため、積極的に情報を共有しながら、共に歩いていくことが大切であると考えます。市町村や各地区・地方はもちろんのこと、県としても一つのチームとして、叡智を結集し、力を合わせて課題に取り組む岩手県中学校長会を目指して参ります。どうぞ、よ

ろしくお願いいたします。

結びとなりますが、岩手県教育委員会並びに各市町村教育委員会をはじめとする関係諸機関、関係各位におかれましては、これまでと変わらぬ大所高所から、ご指導ご支援を賜りますようお願いを申し上げます、挨拶と致します。

退会者代表あいさつ

平成から令和へ

前岩手県中学校長会長
佐藤 進



まずもって、昨年度末で退会した31名を代表し、これまでの皆様方からのご支援に対し厚く御礼を申し上げます。また、4月26日には新会員32名を迎え、小野寺新会長のもとで第57回県中校長会総会が盛大に開催されましたことに、心からお喜び申し上げます。

総会では、新しい時代の幕開けに相応しい、会員の皆様方の活気が伝わるものでありました。また、今年度も復興が進む被災地の様子についての映像が紹介されましたが、これまでの県中校長会の確かな歩みを確認する貴重な時間となりました。

昭和の時代に教育を受け、平成の時代に教壇に立ち、令和の時代を管理職として歩む校長先生方がありますが、学校経営はこれまで以上に細かな状況分析と的確な判断・対応力が求められる時代になっていると感じます。しかし、いつの時代にあっても大切なことは、本質を見失うことなく信念（哲学）をもって対応することだと思います。どうか思う存分の活躍をご期待申し上げます。

県中校長会員数の推移をたどると、昭和38年に320名で発足し、平成元年には222名、令和元年の今年度は158名となっており、平成の時代だけでも3割減という状況にあります。「数」の減少は「質」の向上で埋めていく必要があり、組織力の向上がこれまで以上に大切になると考えます。昨年度、県中校長会で行った取組の一つとして「ホームページの開設」があります。震災の風化防止のために被災地から積極的に情報発信して欲しいという全日中からの要望に応えたものでありましたが、本県としても、情報交換の場を広げ、学校現場における改革・改善に積極的に対応することをねらったものでありました。県中校長会員の経験や蓄積してきたデータ・会報等の貴重な財産を眠らせることなく、積極的に活

用できる環境を整え、校長相互の一層の連携につなげることができるものと期待しているところであります。

終わりになりますが、今年度運営方針の一つ目に「会員相互の連携と交流を密にし、本会の活動の充実とその活性化に努める」とあります。退会者も県中校長会を盛り立てていけるよう支えて参りますので、当会の益々の充実・発展をご期待申し上げ、退会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

平成30年度退会者

No.	地区	学校名	氏 名
1	盛岡	盛岡市立厨川中学校	佐藤 精 晋
2	盛岡	盛岡市立上田中学校	佐藤 進
3	盛岡	盛岡市立米内中学校	田山 英 治
4	盛岡	盛岡市立黒石野中学校	齊藤 眞理子
5	盛岡	盛岡市立繋中学校	菊池 誠 也
6	盛岡	盛岡市立城西中学校	菊池 英 雄
7	盛岡	盛岡市立飯岡中学校	菊池 敏 宏
8	盛岡	岩手大学教育学部附属中学校	名越 利 幸
9	岩手	葛巻町立小屋瀬中学校	佐久山 明 彦
10	岩手	八幡平市立松尾中学校	菊池 克 幸
11	岩手	滝沢市立滝沢中学校	田口 秀 一
12	紫波	紫波町立紫波第三中学校	佐々木 徹 哉
13	紫波	矢巾町立矢巾中学校	佐々木 庸
14	花巻	花巻市立花巻中学校	小原 昭 徳
15	花巻	花巻市立湯本中学校	三浦 剛
16	花巻	花巻市立石鳥谷中学校	富永 秀 寿
17	和賀	北上市立北上中学校	下川原 宏 明
18	胆江	奥州市立水沢中学校	佐藤 健 司
19	胆江	奥州市立東水沢中学校	高橋 勝
20	一関	一関市立萩荘中学校	今野 利 昭
21	一関	一関市立川崎中学校	中嶋 眞 理
22	気仙	大船渡市立大船渡中学校	佐藤 謙 二
23	気仙	大船渡市立赤崎中学校	松村 敦 子
24	釜石	釜石市立大平中学校	大森 厚 志
25	釜石	釜石市立釜石東中学校	佐々木 賢 治
26	宮古	宮古市立第一中学校	佐藤 和 信
27	宮古	宮古市立重茂中学校	木村 茂 樹
28	宮古	宮古市立崎山中学校	井口 亘
29	二戸	二戸市立福岡中学校	佐藤 順
30	二戸	二戸市立浄法寺中学校	小林 美智男
31	二戸	一戸町立奥中山中学校	琵琶坂 公 一

平成31年度行政説明の概要

教育行政上の課題について

教職員課首席指導主事兼

小中学校人事課長 金野 治 様



<はじめに>

4月からお世話になっております。貴重な時間をいただいたことに感謝を申し上げます。資料に基づいて説明いたしますのでよろしくお願いいたします。

1 定期人事異動の概略

- (1) 異動総数1,458名（全体の20.7%）
- (2) 事務所を越える異動（教諭）397名（+52名）
- (3) 管理職への昇任 校長90名（+11名）
副校長92名（+13名）
- (4) 女性管理職 校長60名（校長全体の13.0%）
副校長107名
（副校長全体の23.1%）
- (5) 退職管理職 校長86名（-4名、勸奨1含む）
副校長30名
（+8名、勸奨3含む）
- (6) 新規採用 小141名、中85名、養教22名、
栄教2名 計250名（+11名）

※次年度は小、中、養教、栄教ともに同程度の採用

※今年度の他県現職採用の年齢制限を49歳へ変更

2 少人数教育の推進について

少人数学級は今年度から小6まで編制を拡充。小、中、義務教育学校ともに全学年で実現。よりよい教育環境を十分生かした指導を構築して、子どもたちの学力保障を中心とした学びの充実に努めてほしい。

3 再任用について

今年度の再任用者数は、29時間が104名、フルタイムが147名（全体の59%）。長年培ってきた経験を存分に発揮されるよう指導支援願いたい。

4 人材育成について

教員の資質向上に関する指標に基づき、方針を明確にした資質向上に取り組むとともに、チェックリストの積極的且つ効果的な活用努めてほしい。

5 不祥事の未然防止について

- (1) 懲戒処分：H30小中10件（-4）
- (2) 事務職の事案が発生。同様事案の再発の防止。
- (3) 体罰は撲滅に至っていない。アンガーマネジメント研修の校内活用。

<おわりに>

教員の働きやすい環境を整え、やる気と意欲を喚起するマネジメントと経営を全力で支えて参りたい。

義務教育行政推進上の現状と課題

学校教育課首席指導主事兼

義務教育課長 小野寺哲男 様



<はじめに>

今日は、学校教育指導指針を活用と、指導主事のこれまで以上の活用、この2つの活用をお願いしたいということを柱に話をいたします。

1 学校教育指導指針について

(1) 岩手県教育振興計画の概要

基本目標「学びと絆で 夢と未来を拓き
社会を創造する人づくり」

① 取組の視点

視点の1「岩手だからこそできる教育、やるべき教育の推進」については、各校が学校や地域の実情に応じて進めていることを、今後一層進めていただくことをお願いしたい。

② 具体的な施策の内容

項目は12あるが、特に学校教育に関わる8項目は、学校経営の重点と重なることが多い。学校、市町村教委、県教委が同じ方向を向き、学校、地域の特色を発揮し、その学校だからできる教育、その学校がやるべき教育をチームワークで切り拓いていきたい。

(2) 県教育委員会が目指す具体的な指標

「いわて県民計画」の中に示されているものであり、県民計画のキーワードである「幸福」を受けた幸福関連指標は、生徒にとっての幸福とは何かということに目を向けて設定したものであり、その6項目を重点に取り組んでいきたい。「どの子にも」という考え方で、生徒の今を重視し夢の実現に向け取り組んでほしい。

2 指導主事の活用について

大切にしたい視点(岩手の義務教育が目指すもの、復興教育の理念、岩手県教育振興計画)に基づいて学校と指導主事が一体となって「学校は何のためにあるのか」について考え、生徒が世の中でよりよく生きていくことができるようにしていきたい。

<おわりに>

大前提は「命」。何のためにこの教育活動があるのかを考え、どの子も一歩前進、どの子にも一歩力をつけたい。そのために2つの活用をお願いしたい。

第1回専門部地区担当者会議の報告

研究調査部

会議では、議長に村上誠氏（気仙地区・吉浜中）を選出、記録者に及川正宏氏（釜石地区・大平中）を委嘱し、経過報告のあと、今年度の運営計画案及び調査研究について協議し、各種研究大会への対応等について確認を行いました。

調査研究については、調査1「進路指導推進状況調査」及び調査2「教育課程実施状況調査」について、昨年度の見直しの視点と変更・追加項目等を確認し、各学校の学校経営等の改善に資するため、それぞれ上期と下期に分けて調査を実施することを確認しました。

調査結果の分析・考察は、幹事の千葉康彦氏（盛岡地区・大宮中）、鈴木美成氏（岩手地区・川口中）、山下彰氏（紫波地区・矢巾北中）、三浦隆氏（附属中）のご協力を得ながら行います。

なお、各地区の研究については、総会要項の「研究の手引き」を参照し、推進をお願いします。

＜研究調査担当理事 村上 淳哉＞

行財政部

会議では、議長に佐藤努氏（花巻地区・石鳥谷中）を選出し、記録に高橋亨氏（和賀地区・北上北中）を委嘱して、今年度の運営方針と事業計画について協議しました。

協議では、昨年度に見直した行財政調査内容と進め方について意見交換を行い、事業推進日程を確認しました。その中で、調査項目の「働き方改革に関する内容」について修正・追加を含めて検討し、実施することを確認しました。また、回答のし方について上位3つの順位付けでの回答ではなく選択回答としてはどうかとの意見があり、検討することになりました。その後、幹事に、畠山雅之氏（盛岡地区・土淵中）、榊原世士氏（岩手地区・滝沢二中）、内田興子氏（紫波地区・紫波二中）を選出しました。

行財政調査は、9月中旬頃～10月上旬頃に電子メールを活用し実施しますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

＜行財政担当理事 菅井 雅之＞

生徒指導部

会議では、議長に泉澤 毅氏（和賀地区・南中）を選出するとともに、記録者に久慈孝氏（胆江地区・水沢南中）を委嘱し、今年度の運営方針と事業計画について協議し、事業推進日程等の確認を行いました。

主要事業である「生徒指導をめぐる諸問題の調査及び研究」は、平成30年度分を対象期間として調査を実施します。調査項目については、5月中旬より各地区担当を通してメール等の電子媒体で送付しますので、会員の皆様のご協力をお願いします。

なお、今年度は、昨年度、調査項目の見直しと一部変更を行ったことから、昨年度と同様の調査項目で実施することを確認しました。調査結果の分析・考察は、幹事の高橋修氏（盛岡地区・見前南中）、角掛忠浩氏（岩手地区・滝沢中）、佐藤嘉宏氏（紫波地区・紫波第一中）のご協力を得て8月中にまとめ、9月に「結果と分析」の概要としてリーフレットを作成し、配布する予定です。

＜生徒指導担当理事 佐野 理＞

広報部

会議では、議長に遠藤岳氏（二戸地区・軽米中）を選出、記録者に大越千晶氏（盛岡地区・玉山中）を委嘱し、今年度の運営計画について協議するとともに、各地区への原稿執筆分担等を確認しました。広報部の主な事業は年間4回の会報「県中いわた」と会誌「岩手県中学校長会誌31号」の発行です。会報の分担等については、これまでのバランスや研究大会の分科会所属等を考慮し、各地区への原稿執筆を依頼しましたので、ご協力をお願いします。

「県中いわた」は6月初旬に246号を発行し、以後2か月毎に発行する予定です。その内容は、県中学校長会総会、各地区校長会の活動状況や先輩メッセージ、新入会員の抱負、横軸連携に係る情報や取り組みの様子とともに全日中群馬大会、東北中秋田大会の様子など適宜掲載したいと考えています。予定の内容が変更になる場合もありますのでご理解願います。

＜広報担当理事 藤岡 宏章＞

平成31年度 新 会 員

No.	地 区	学校名	氏 名	前 所 属 職
1	盛 岡	繫	小山田 吉 光	遠野・小友小学校校長
2	盛 岡	洪 民	高 橋 浩 幸	平舘小学校校長
3	盛 岡	岩手大学 教育学部附属	宮 川 洋 一	岩手大学教育学部教授
4	岩 手	柳 沢	中 村 美以子	御辺地小学校校長
5	紫 波	矢巾北	山 下 彰	達曽部小学校校長
6	花 卷	湯 本	高 橋 透	飯豊中学校副校長
7	花 卷	宮野目	丸 橋 友 之	県教委教職員課主任 経営指導主事
8	花 卷	東 和	菊 地 榮 壽	大野中学校副校長
9	一 関	大 原	伊 東 秀 敏	東陵中学校副校長
10	一 関	川 崎	及 川 公 子	盛岡市教委研究所長 補佐兼主任指導主事
11	一 関	藤 沢	菅 野 美保子	川崎小学校副校長
12	一 関	平 泉	平 野 道 夫	宮守小学校校長
13	気 仙	赤 崎	菅 生 裕 之	重茂中学校副校長
14	釜 石	大 平	及 川 正 宏	綾里中学校副校長
15	釜 石	釜石東	米 慎 司	県教委学校教育課首席指導 主事兼学力向上担当課長
16	宮 古	津軽石	齊 藤 雅 彦	釜石市教委学校教育課長
17	宮 古	重 茂	石 積 康 弘	西根中学校副校長
18	宮 古	崎 山	佐々木 哲	一関中学校副校長
19	宮 古	新 里	高 橋 徹	下小路中学校副校長
20	宮 古	川 井	吉 田 由 美	北上中学校副校長
21	宮 古	豊間根	佐々木 秀 毅	久慈中学校副校長
22	宮 古	釜津田	羽 柴 隆 之	滝沢南中学校副校長
23	久 慈	侍 浜	大久保 士 郎	田老第一中学校副校長
24	久 慈	三 崎	松 村 巖 寿	甲子中学校副校長
25	久 慈	普 代	瀬 川 勝 司	花巻中学校副校長
26	久 慈	種 市	松 岡 聡	大宮中学校副校長
27	久 慈	宿 戸	佐々木 英 幸	黒石野中学校副校長
28	二 戸	金田一	千 田 幸 喜	一関一高附属中学校副校長
29	二 戸	浄法寺	長 島 香乃子	盛岡・河南中学校副校長
30	二 戸	軽 米	遠 藤 岳	北陵中学校副校長
31	二 戸	九 戸	佐 藤 純 子	福岡中学校副校長
32	二 戸	奥中山	後 藤 康	藤沢中学校副校長

平成31年度 県中役員

役 職	氏 名	学 校 名
会 長	小野寺 昭 彦	下 橋
副 会 長	佐 藤 亥 壺	仙 北
〃	吉 田 靖 雅	花 巻 北
〃	福 井 信 夫	一 関
〃	小野寺 一 行	一 戸
監 事	西 郷 晃	紫 波 第 三
〃	菊 池 俊 二	衣 川
〃	佐々木 律 夫	山 形
理 事	岩 崎 雅 司	盛岡・河南
〃	中 田 隆 一	一 方 井
〃	内 田 興 子	紫 波 第 二
〃	吉 田 靖 雅	花 巻 北
〃	八重樫 仁	遠 野 東
〃	畠 山 敏	和 賀 東
〃	遠 藤 宗 俊	金 ケ 崎
〃	福 井 信 夫	一 関
〃	松 高 正 俊	大 船 渡 第 一
〃	川 崎 一 弘	釜 石
〃	伊茂野 達 哉	宮 古 ・ 第 一
〃	菊 地 理	久 慈
〃	小野寺 一 行	一 戸
評 議 員	千 田 幸 範	城 東
〃	工 藤 良 二	松 尾
〃	山 下 彰	矢 巾 北
〃	高 橋 透	湯 本
〃	小 向 敏 夫	遠 野
〃	柿 崎 肇	江 釣 子
〃	大 平 優	江 刺 南
〃	鈴 木 利 典	巖 美
〃	金 野 勝 紀	日 頃 市
〃	菊 地 正 道	唐 丹
〃	佐々木 慶 信	山 田
〃	小 橋 敏	長 内
〃	前 田 稔	福 岡
常 任 理 事		
〃 (総 務)	菊 池 正 樹	厨 川
〃 (研究調査)	村 上 淳 哉	北 松 園
〃 (行 財 政)	菅 井 雅 之	見 前
〃 (生徒指導)	佐 野 理	上 田
〃 (広 報)	藤 岡 宏 章	黒 石 野
〃 (中 体 連)	大 林 裕 明	下 小 路
〃 (中 文 連)	小野寺 昭 彦	下 橋

絆
きずな

大震災津波からの教育の復興に向けて ～県中学校長会の取組と学校は「今」～

岩手県中学校長会総会において、佐藤玄壺副会長（仙北中）より、東日本大震災津波から8年が経過した今、この間の県中学校長会の取組を振り返り、沿岸被災地域の中学校の「今」についての報告がありました。



1 岩手県中学校長会最初の一手

県中学校長会では、「岩手県は、『顔の見える支援』を！」を合言葉に、横軸連携・姉妹校連携の取組を進め、大震災津波直後の状況や横軸連携、姉妹校連携の取組をまとめた記録集「明日を見て 前を向いて」を編纂し発刊しました。さらに、3年が経過した平成26年3月に各学校や校長会の取り組み、生徒たちの活動の様子をまとめた第2集「未来への一歩を共に」を発刊しました。



また、平成23年8月、平成25年1月に支援対応に係る情報交換会を開催しました。

2 いわて震災復興パネル展

平成29年6月、花巻市で開催された第67回東北地区中学校長会研究協議会岩手大会では、「震災を忘れない、風化させない」という思いを込め、被災した沿岸地区の中学校の状況をパネルで展示しました。研究協議会に参加した他県の校長先生方に復興の様子を伝えることができました。



3 全日中役員被災地訪問

これまでも全日本中学校長会からは、義援金をはじめ和太鼓の寄贈など、多大な支援をいただいています。平成30年7月、全日本中学校長会山本会長と役員3名が来県し、大槌町文化交流センター「お

しゃっち」と義務教育学校として設立された大槌学園を訪問し、釜石地区校長会との意見交換、その後、釜石鵜住居復興スタジアムを見学しながら地域の復興の様子についての情報交換を行いました。



4 学校は「今」

ベルマーク財団からの支援を活用した活動の様子、発災から8年が経過した宮古地区・釜石地区・気仙地区の生徒たちの様子を紹介しました。

【支援募金活動】



【復興道路開通に向けて】



【合同避難訓練】



【駅の看板・壁画デザイン】



【校庭開き】



【校庭で行われた運動会】



終わりに、時間の経過とともに被災各校の状況の多様化や、意識の風化が懸念されています。

横軸連携・姉妹校連携の精神を大切にしながら、県中学校長会158名の会員が一丸となって「学びの場」の復興に取り組んでいく必要があります。

今後も、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げまして、話題提供といたします。